

[資料]

アメリカ合衆国におけるキャリア教育とスクール・カウンセリング(1)  
—ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム (MCGCP) について—

Career Education and Counseling in the USA (1): Missouri Comprehensive Guidance and Counseling Program (MCGCP)

黒水 温

Michiru KUROMIZU

(北九州市立三郎丸小学校)

井本 泰子

Hiroko IMOTO

(粕屋町立粕屋中学校)

西山 久子

Hisako NISHIYAMA

脇田 哲郎

Tetsuro WAKITA

小泉 令三

Reizo KOIZUMI

納富 恵子

Keiko NOTOMI

(福岡教育大学教職実践講座)

(2017年1月31日受理)

2016年(平成28年)年2月24日～3月3日、アメリカ合衆国ミズーリ州及びカリフォルニア州にてスクール・カウンセリングやスクール・カウンセラー(SC)養成等について視察を行った。本報告では、ミズーリ州での研修について報告を行う。ミズーリ州のスクール・カウンセリングでは、幼児期から高校卒業までの子どもを対象に「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム(MCGCP)」という統一されたプログラムを基に、キャリア教育を中核とする全人的教育のプログラム化が推進されていた。これは、①ガイダンスカリキュラム、②個人プランニング、③事後対応型サービス、④システム支援の4要素で構成されている。実際の学校での取組から、SCがキャリア教育推進の中心であることが確認され、その基盤として、SC養成機関/SCの職能団体/教育行政機関の3者のコラボレーションが機能していることがわかった。そして、日本のキャリア教育を中核とする全人的教育の方針への示唆が得られた。

キーワード：キャリア教育 ミズーリ州 スクール・カウンセラー(SC)

2016年(平成28年)2月24日(水)～3月3日(木)に、教職大学院生6名と大学教員4名が、アメリカ合衆国(以降アメリカと略記)の2つの州を訪問し、スクール・カウンセリングやスクール・カウンセラー(以降SC)養成等について視察を行った。本報告では、最初に訪問したミズーリ州での研修について報告を行う。なお、全旅程及び訪問した学校の概要は、第2報の最後に資料として示した。

### 1 ミズーリ州におけるスクール・カウンセリングについて

ミズーリ州立大学(University of Missouri, Columbia)にてガイズバーズ氏(Dr. Norman Gysbers)より、アメリカにおけるスクール・カウンセリングの発展の歴史と現在の状況、ミズーリ州の包括的ガイダンス・カウンセリングプログラムにつ

いて説明を受けた。

アメリカでは1920年代に、経済、学問、社会問題の3つのポイントから、スクール・カウンセリングの必要性が高まっていた。特に社会問題であった児童の労働問題が大きく関わっていた。社会貢献していく人材の育成、教育を受ける目的の明確化などの必要性から、スクール・カウンセリングが導入されることとなった。当初、アメリカにおいても日本と同様にスクール・カウンセリングは教師が担っていた。しかし、役割はあってもトレーニングやそのための時間の確保も不十分であった。そのため徐々に専任化されることとなった。その後、仕事の内容も精選され、今の形となった。スクール・カウンセリングの発展において大きな転機となったのは1950年代後半である。国防法やスプートニクショックの影響を受け、SCが単なる役割ではなく、学校教育におけるスクール・カウンセリングの枠組みづくり

を担う存在となってきた。1980年代にはカウンセリング&ガイダンスのプログラムが進められ、1990年代には包括的プログラムとなる。特にミズーリ州では初等中等教育において「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム(MCGCP)」が作成されている。このプログラムは、現在アメリカで広く行われている包括的ガイダンス・カウンセリングの基となっている。

「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム(MCGCP)」とは、ミズーリ州の初等中等教育において、幼稚園から高校3年生までの発達段階に沿って、進学や就職などそれぞれの移行期を支え、学校での適応を人生における成功に近づけることを目指してSCが中心になって推進するプログラムである。児童生徒は学校で人とつながり、大切にしたりされたりする経験を持つことで、より適応感を増すというコンセプトのもとに、教師やSCは児童生徒に関わっている。下の資料は西山(2014)による「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム(MCGCP)」の日本語訳の一部を抜粋したものである。

このプログラムには①ガイダンスカリキュラム、②個人プランニング、③事後対応型サービス、④シ

ステム支援の4つの要素がある。

①ガイダンスカリキュラム：すべての児童生徒とその保護者を対象にして行われる。内容は、学級においてキャリア計画の説明を行ったり、少人数のグループで活動を行ったりする。その他にもキャリアデイ、カレッジフェア等のイベントを行って、児童生徒のキャリア意識を高めることを目的とする。

②個人プランニング：一人一人の児童生徒が個人の学習プランを立て、自分自身をモニターしながらより良い進路形成をしていく活動である。SCは計画作成の際にアドバイスしながら児童生徒を支えるようにしている。自ら考えてプランを作成し、プランの改善を行うことで、なぜ学ぶのかという目的意識をはっきりとさせ、自分の人生に責任を持つことのできる児童生徒の育成を目指す。

③事後対応型サービス：何かしらの課題を抱えた児童生徒に対して、個人的なカウンセリングや、似た課題を抱えた児童生徒同士でグループを作って小集団のカウンセリングを行ったりする活動である。課題が深刻な場合には、外部の関係機関につながることもSCの役割である。

④システム支援：校内においてスクール・カウンセリングプログラムやキャリア教育と他のプログ

ミズーリ州包括的ガイダンス&カウンセリングプログラム

知識の深さ(Depth Of Knowledge)  
DOK レベル I : 銘記 DOK レベル III : 戦略的思考  
DOK レベル II : スキル/概念 DOK レベル IV : 拡張的思考

Table with 8 columns (A-G) and 4 rows (A-C). Columns represent grade levels: A (GLS-K), B (GLS-1), C (GLS-2), D (GLS-3), E (GLS-4), F (GLS-5), G (GLS-6). Rows represent concepts: A. Self-concept, B. Life balance, C. Diverse social roles. Includes sub-points and DOK levels.

ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム

知識の深さ(Depth Of Knowledge)  
DOK レベル I : 銘記 DOK レベル III : 戦略的思考  
DOK レベル II : スキル/概念 DOK レベル IV : 拡張的思考

Table with 8 columns (A-G) and 2 rows (A-B). Columns represent grade levels: A (GLS-K), B (GLS-1), C (GLS-2), D (GLS-3), E (GLS-4), F (GLS-5), G (GLS-6). Rows represent concepts: A. Learning progress, B. Self-management. Includes sub-points and DOK levels.

ラムの関係性を整理し、よりよく実践していく学校体制を整えることである。この中にはスタッフの連携や地域連携、それぞれの役割の分担なども含まれる。

このようにミズーリ州ではSCを中心にキャリア教育の推進が行われている。

## 2 中等教育におけるプログラムの実際

「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム (MCGCP)」の4要素を具体的にどのように行っているかを中心に、高校の視察を行った。

### (1)Rock Bridge High School

ロックブリッジハイスクールはミズーリ州立大学の近隣に位置し、15~18歳の生徒が所属する。経済的、家庭的に安定した地域の高校である。全校生徒は1896名(9<sup>th</sup>, 15歳, 499名; 10<sup>th</sup>, 16歳, 478名; 11<sup>th</sup>, 17歳, 458名; 12<sup>th</sup>, 18歳, 461名)である。また、スタッフは管理職7名、フルタイムの教科担任が178名、パートタイムが9名、SCが7名、補助が28名である。キャリア教育に力を入れており、非常に先進的な取組を行っている。2015年度の生徒進学先は4年制大学67%、短大20%、軍関係1%、就職8%、その他4%となっている。

#### ①ガイダンスプログラム

生徒全員に「Student Handbook Rock Bridge High School」という手引きが配布される。これは、学校の紹介や理念などの説明とともに、学校にどのような学びが準備されているかなどの情報が示されている。ロックブリッジハイスクールでは多様なカリキュラムがあり、学年ごとに教師とSCが様々なかわりを行う。9年生はアドバイザーという期間があり、先生をゲストスピーカーとして演習を行う。ここでは社会性や学習面の力がつくように指導を行う。10年生以降はプッシュインという、SCが授業に入ってガイダンスを行う取組が行われるようになる。生徒が自分の特性を知り、興味関心を生かした進学や就職ができるように学びが計画されている。生徒だけでなく、その保護者を対象とした研修も行う。大学進学に対しての保護者の心構えや金銭面の備えについても詳しく説明を行う。

#### ②個人プランニング

SCらは、生徒と個別に話し合いながら進路に関する計画を各生徒が作成するのを援助する。当該学年1年間のカリキュラムだけでなく、学校に在籍している4年間のカリキュラムも作成する。高校を卒業後に自分が何をしたいかを大切に、進学や就職

の選択を行う。キャリアルームには多くの大学の説明資料が整理されている。キャリアルームの周りにはSCの個室があり、SCと話し合うことができる。時には、志望する大学の関係者による大学の説明会も行われる。成績をもとに進学先やカリキュラムを選択するのではなく、自分の興味関心をもとに進路を選択し、それに合わせたカリキュラムを計画するようになっている。

#### ③事後対応サービス

様々な課題を抱えた生徒を個別に、またはグループで支援していくサービスである。SCの個室で個別に対応していて難しいケースに関しては外部の関係機関を紹介することもある。最近では所属の教員が交通事故に巻き込まれた際に、チームで学校や地域のカウンセリング体制を組み、危機対応チームを結成して、悲嘆のプロセスをコーディネートした。

#### ④システムサポート

ガイダンスプログラムの評価を行ったり、SCがどのような業務を行っているかデータ収集を行ったりして、システムの改善に努めている。また、若年層教員へのコンサルテーションも行っている。教員の依頼に基づいて、学級へ行き生徒の様子をもとにコンサルテーションを行う。教科に関しては教員の中にメンターがいるので、SCは子どもへの関わり方についてサポートする。

#### ⑤考察

ロックブリッジハイスクールでは、進学に力を入れているとの説明があったが、そのなかでSCが中心となってキャリア教育を進めている姿が具体的に見られた。まず、キャリアセンターには多くの大学の説明資料があり、生徒の興味に合わせた進学先の提供が行われている。そのキャリアセンターのまわりにはSCの部屋が配置され、いつでも気軽に相談できる体制が整えられている。実際に、説明を聞いている間に何人も生徒がSCの部屋を出入りしていた。生徒が自分で進路について考えて、SCの協力を得ながら選択している姿が見られた。また、校内には様々な掲示物があり、その中にはキャリア教育に関するものが多くあった。英語を学びながら社会性を学ぶことを目的としたショートストーリーの掲示物や、グローバルフェアという様々な国について学ぶフェアやキャリアについて考えるイベントが多く企画されていた。教科の学習とキャリア教育を関連させながら、学校への適応を促進させたり進路について考えさせたりする工夫が行われていた。

そのような取組の中で、SCが果たす役割は大きい。生徒への個別の対応を行いながら、学校全体の

キャリア教育のマネジメントも行っている。様々なイベントを仕掛けたり、進路についての情報を収集し活用したりするなど、常にアンテナを高くして情報を得ていなければ、生徒のニーズに応えることができないと考える。ロックブリッジハイスクールでは常勤、非常勤を合わせてSCが7名いる。この7名がまず、チームとして機能する必要がある。実際にロックブリッジでも、SCがすべてに対応するのではなく、役割分担をして生徒のニーズに応じて4つの要素を満たすことができるように協働していた。さらにそこに、教員とのパートナーシップがあることで、生徒の全人的な成長を支援することができるのだと考える。

## (2)Centralia High School

Centralia 地区は、ミズーリ州の州都ジェファーソンシティから1時間ほどの位置にある農村である。人口はおよそ4000人でその8割は白人である。Centralia High Schoolは、地区にある公立の総合高校で、9年生(中3)~12年生(高3)が在籍している。生徒数は1学年100人弱で、スクールカラーはオレンジと黒、そしてマスコットはパンサーである。2人のSCが、それぞれ9・10年生と11・12年生を担当している。

### 【Centralia High Schoolの取り組み】

#### ①ガイダンスカリキュラム

アカデミック、キャリアを中心に取り組んでいる。健康の教科学習の中で、心理・社会面をカバーしてSCがやることを2つに焦点化している。そのため心理・社会面のモニターは、教科担当者がアンケート形式のシートでチェックし、気になる子をピックアップしてSCにつなぐ仕組みにしている。

今年度から、「PASS」(パンサー、アカデミック、サポート、システム)という人とのかわり、自己表現、仲間づくりなどのソフトスキルについても取り組みを始めた。SCがプログラムを計画し、他の教員に渡してやってもらう形を取っている。午後の時間帯に40分の時間を設定している。

キャリア教育については、8年生からの6年間計画で考えている。6年計画の半分(高1まで)が終わったところで、高校卒業後の進路を考えさせる。

高1では、パンサーパスウェイを活用して将来どんな仕事をするのか、どんな生活が待っているのかなどを知る。生徒を小さなグループに分けて地域の人たちと交流するイベントも行っている。長期的視点のゴール設定のために、いろいろな仕事に目を向けさせている。そして、自分の家族以外の人と関わ

り、自分の進路の方向性をたくさん知ることができるようになってきている。高校後半は、ミズーリコネクションに戻って、自分のキャリアの探索を重ねていく。興味のあるところから自分の中の選択肢を増やしていくように指導している。高3では特にジョブシャドウ(ミズーリコネクションの成果の中から、自分の興味のある仕事を選択し、現場に一日はりついて一緒に過ごす)を行っている。高校最後の学年(高3)は、卒業必修科目を終え空き時間が多くなっているため、卒業後を意識させて2日に1回はインターンに行き、町のビジネス場面で活躍するのが授業の一貫になっている。町が積極的に協力してくれ、生徒が将来何をしたいかを考えるのに役立っている。高校での経験が実際の就職に役立った生徒もいる。

PASSの時間やランチタイムも活用して、各大学の募集担当などに来てもらう。たくさんの大学に来てもらうことで、それぞれの大学の特徴を理解してもらい、進路選択に役立てる。また、大学に進学しない生徒のために、軍隊の勧誘担当者に来てもらったり、ミズーリ州は地域のキャリアセンターが充実しているため、実際にそこに連れて行って職業訓練を受けさせたりもして、高校にいる間に進みたい道の感覚を身に着けることができるようにしている。

卒業後も有利になるように、高校の単位にもカレッジでの単位になるものをオンラインで取得できるようにしている(時間割を作るときに、空き時間を作り、その空き時間を活用させる)。たくさんのオプションを与え、多くの選択肢の中から自分の進路を選択できるように指導している。高校のうちどんな可能性があるのかしっかり見てもらうようにしている。

#### ②個人プランニング

1学年100人弱とそれほど大きな規模の学校ではないことを活用して、最終学年(高3)は個別面談に時間をとり、高校卒業後のプランをしっかりと確認している。

#### ③事後対応型サービス

外部に委託して支援を受けている生徒は24件で、年々増加傾向にある。学校に来てくれるセラピスト、ケースワーカーがいる。

#### ④システム支援

全教員の協力を得るために、スクール・カウンセリングに関するイベントの計画は、しっかり1枚の用紙にまとめている。

生徒全員にキャリアプランニングガイドを配布している。前半には、キャリアの概要、それぞれの分野に進むには高校でどんな授業を取ればよいか、

デュアルクレジットクラス（職業訓練と高校卒業単位が同時に取得できる授業）・職業訓練学校の紹介などが示されている。後半には、この学校で実際に取れる授業を紹介している。

ミズーリコネクション（WEB ベースのキャリア探索プログラム）を活用して、自分の特徴やフィットする進路を選ぶようにしているが、自宅でPCが使えない生徒には、ハードコピーを渡して、保護者にもきちんと情報が届くようにしている。

9年生（中3）への移行がうまくいくように、8年生（中2）に対してもミドルスクールにSCが向いて対応している。9年生の生活、その後の高校生活のスケジュールや授業で選択できるコースなどをしっかりイメージできる様に話し、中高の6年間を一つのまとまりとしてやっている。

### 【Centralia Middle School の取り組み】（6年生、小6～8年生、中2）

#### ①ガイダンスカリキュラム

教室に向いてのガイダンスレッスンに力を入れている。内容は、自己理解・他者理解、コーピング、自尊感情など人とのかかわりを大切にしている。ソーシャルメディアとどう付き合うかなど、安全に生きていく方法も教えている。

#### ②個人プランニング

自分の将来に向けた個人プランニングを行う。ミズーリコネクションを活用し、なるべく多く選択肢を与えるようにしている。ローンはどう組むか、生活費はどの程度かかるか、保険や税金をどう支払うかなど、現実に対処するための基礎を理解する。

#### ③事後対応型サービス

学習面、心理社会面、身体面の悩みに対応している。悩みはかなり幅広い。できるだけ、カウンセラーが自分で対応するようにしている。外部対応は20件。学校に来てくれるセラピストは3名。ケースワーカーもいる。その子の課題に対して適切な資源を探すことが大事であると考えている。

### 【Centralia Elementary School の取り組み】（K、幼稚園年長～5年生、小5）

#### ①ガイダンスカリキュラム

小学校は学級担任制で、高校に比べると予防的な介入が行いやすい。ガイダンスを入れやすい。教室で全員を対象にしたガイダンスレッスンに多くの時間を当てている。何をするかは、ニーズアセスメントをしてから決める。中・高でも役立つ内容についても（いじめ予防、Noと言うなど）取り上げる。

キャリア教育については、家庭であまりなじんで

いない仕事に触れ、社会全体を知るように指導している。なぜ働く必要があるのか、お金を稼ぐとはどういうことなのか、地域の仕事や役割を担うことでお互いが生活しやすくなること、コミュニティをどう支え合うかについても学ぶ。自分の親の仕事とは違う仕事で将来の役に立つものを、ビデオ教材などを活用して知ってもらうこともしている。

高学年になるとキャリアパスを考え始める。何が好きで何が得意か。それがどんな仕事につながるのかといったことなど、小学生に見合うレベルでの進路探索をする。進路については、方向性の理解をし、個別プランニングの概念を持たせる。キャリアに関するポートフォリオを4,5年生で積み上げて最初のレベルの探索を始める。

学習コミュニティの概念をしっかりと理解させる。どんな責任をもっているか、自分の果たすべき役割を果たさないとどうなるか、どうしてうまくいかないことが起きるのか、うまくいくとどうなるのか、いい学び手になるために、ノートの取り方や聞き方も教える。

#### ③事後対応型サービス

危機対応のフローチャートが作成されている。家族の中の問題（虐待、ネグレクト）は、ホットラインで通告する義務がある。

似た課題を抱える生徒でグループを組み、互いに支えあうように仕組んでいる。Student intervention team を組んで支援を考えることもしている。ニーズは多様で、SCが中核となって必要なメンバーを集めてチームを組む。特別な支援が必要なケースもある。スクールサイコロジストにはケースに応じて依頼をしている。

#### ④システム支援

学校でのスクール・カウンセリングプログラムの推進、データ収集、フェアシェア（妥当な校務分担）、保護者・地域の資源活用が、SCとしてのシステム支援の内容である。

メンタルヘルスに関することに税金を優先して使うことになっている。SCはメンタルヘルスについては中核的な役割を果たしている。

#### ⑤考察

Centralia 地区は、SC1人で400人近い生徒を抱えるのが一般的と言われる中で、アメリカSC協会が標準としている、生徒250人にSC1人の割合に近い恵まれた状態で、SCが配置されていた。また、SC同士の連携が密で、小・中・高校を通して、発達段階と領域の共有された包括的なスクール・カウンセリングが行われていた。これは、ミズーリ州で包括的スクール・カウンセリングのプログラムがきち

んと確立されていることによるものだと感じた。

アメリカのスクール・カウンセリングがキャリア発達に力を入れていることは、先に訪問した **Rock Bridge High School** でも感じたが、地域性を反映しているのか **Centralia High School** では、進学だけでなく、就職後の生活等も視野に入れて、職業体験等が手厚く行われていた。町との連携も強く、たくさんの方の選択肢を与え、生徒に具体的な体験をさせている印象を受けた。

校長先生が、「先生達は指導力があり授業がうまいが、誰に何のために教えているのかが時々抜けてしまうことがある。自立して生きていける人をつくるのを一番重視している。子ども達だけでなく、先生が地域の人と触れて、自分のやっていることがどうつながっているのか意識してもらうことを大事にしている。」と言われるように、「アメリカという国を作っていく人材を育てる」というアメリカの教育の根本的な考えを具現化するために、**SC** が学校内で果たしている役割の重要性（キャリア教育の推進、生徒の学校適応）がうかがえた。**SC** 自身の、「**SC** は子供のサポート役。学校の中心にいて頼りにされている仕事」と言う言葉からも、それがうかがえた。また、日本人留学生（高校生）に、アメリカの **SC** に接して感じたことを尋ねたところ、「夢をすごく応援してくれる。とても助けられている。」という返事が返ってきた。**SC** がうまく機能しているモデル的な学校だという印象を持った。

### 3 ミズーリ州におけるガイダンスカリキュラムの導入と **SC** 養成

#### (1) ミズーリ州初等中等教育局

Missouri Department of Elementary & Secondary Education（ミズーリ州初等中等教育局）では、「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム（**MCGCP**）」の導入と **SC** 養成に関するシステムについて説明を受けた。

ミズーリ州では **CTE**（**Career Technique Education**）と呼ばれる職業教育のシステムがある。57もの地域キャリアセンターがあり、ミズーリ州のガイダンスカリキュラムにおけるキャリア教育を促進させる取組の特徴となっている。**CTE** のプログラムには農業をはじめ、様々な分野のプログラムがあり、中学3年生から高校3年生までの約66%が、少なくとも1つのキャリア技術教育に参加している。このような取組の成果は高校卒業率にも現れており、州の平均高卒率が86%であるのに対して、キャリア技術教育で自分の進路のために **CTE** のプ

ログラムを選択して学びを深めている生徒の卒業率は95.92%と高い数値を示している。

ミズーリ州初等中等教育局では、州のスクール・カウンセリングに関する施策の中心機関として、他のセクションとも連携し、標準化と内容の向上に取り組んでいる。初等中等教育局では現場の **SC** の声をもとに、ガイダンスカリキュラムの見直しを定期的に行っている。教育局を訪問した折にも、8名の有資格者が集まっており、ガイダンス・カリキュラム及び推進についての見直しを行っているとのことであった。

#### (2) **Stephens College**

ステファンズ大学（**Stephens College**）を訪問し、**SC** の養成プログラムの紹介を受けた。この大学では、ミズーリ州教育局で包括的スクール・カウンセリングプログラム作りを推進しているスタッフも非常勤で養成プログラムに携わっている。前述のミズーリ州立大学の **SC** 養成課程とは異なり、主に夕方と週末に授業を設定し、昼に仕事をしながらでも履修することが可能なカリキュラムを構成している。これら **SC** 養成機関は、関係機関の間で連携し、現場での実習を行うなど、より実践的な **SC** の養成にも努めている。

このミズーリ州のガイダンスカリキュラムが非常にうまく運営されている要因として、州内の学校現場で働く **SC** で形成されているミズーリ州 **SC** 協会、ミズーリ州初等中等教育局、ミズーリ州内で **SC** を養成する高等教育機関の3つが協働していることが挙げられる。具体的には初等中等教育局がスクール・カウンセリングに関連する施策を推進し、ミズーリ州立大学の **Gysbers** 氏や **Stephens College** スタッフなどの **SC** 養成教育関係者が養成プログラムの内容を構想し、**SC** 協会が学校現場で **SC** に求められる役割に関するニーズ把握などを行う。そしてその3領域が相互にコラボレーションして、担当領域が向上するよう機能していることが、安定した成長し続けるスクール・カウンセリングの推進につながっているといえる。

### 4 総合考察

「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム（**MCGCP**）」について、導入の背景や実際に現場での取組を、養成課程や **SC** の活動などを中心に視察した。また、教育省の訪問から、州全体でのプログラム推進のための組織的な取組や、改善に向けた継続的な活動の具体について把握するこ

とができた。

ミズーリでは高校 2 校と行政機関および 2 つの SC 養成機関が訪問先であった。その経験を通して、アメリカのスクール・カウンセリングは、SC らによって推進されるキャリア教育を中心にして、学校の様々な学びが機能的に運営されていることがわかった。「Why try? (なぜ学ぶのか?)」という問いかけのもと、キャリア教育が就学前から計画的に行われることで、児童生徒にも自然に学ぶことの目的意識が生まれていると感じた。

日本では小1プロブレムや中1ギャップなど移行期の課題解決のためのキャリア教育・生徒指導が注目されているが、移行期にはそれ以外にも高校進学、進路選択、就職など様々な課題がある。ミズーリ州のガイダンスカリキュラムは、そのような児童生徒の人生における様々な移行期及び発達段階ごとの成長課題の克服を支援することを目的としている。ガイダンスカリキュラムは単なる進路選択・職業選択のための学びではなく、児童生徒が自身の人生をよりよく生きていくための様々なスキルを学ぶカリキュラムである。

生徒指導提要(文部科学省, 2011a)では「生徒指導は、生徒が自ら、将来の進路選択・計画を行い、就職又は進学をして、さらには将来の進路を適切に選択・決定していくための能力をはぐくむため、学校全体として組織的・体系的に取り組む教育活動」とある。さらに、生徒指導は「近年では、キャリア教育の推進の中に位置付けられ、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導が系統的に展開され、幅広い能力の形成を目指している。」と書かれている。キャリア教育は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育活動」(文部科学省, 2011b)として推進が行われている。

「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム(MCGCP)」の4つの要素である①ガイダンスカリキュラム、②個人プランニング、③事後対応型サービス、④システム支援のそれぞれの要素は日本でも似たような取組が行われている。①ガイダンスカリキュラムは特別活動の時間などに、学級担任が児童生徒へ実施している。内容は学校ごとに児童の実態に応じて工夫されている。ミズーリ州のように統一したプログラムがあるわけではないので、学校ごとに取組の内容が変わってしまう。②個人プランニングについては、特別活動の他に、家庭科、総合的な学習の時間などで実施する場合がある。学級担任や教科担任が児童に実施する。③事後対応型サービスについては、学級担任や生徒指導主任、

養護教諭などの校内資源を活用したり、内容によってはSCや関係機関などの校外資源を活用したりする。④システム支援については、関係する部会がそれぞれカリキュラムの見直しを行う。システムについては教務主任や学年主任などが中心となって改善を行っていく。

このように日本とミズーリ州では似たような取組を行っているが、大きな違いはミズーリ州では「ミズーリ州包括的ガイダンス・カウンセリングプログラム(MCGCP)」という州統一のプログラムがある点である。どの段階で、どのような能力が必要で、どのような学びを行うかということが明確に示されているため、児童生徒の学びに取りこぼしが少ない。日本でも例えば中学校用であれば「中学校キャリア教育の手引き」(文部科学省, 2011b)が出されているが、ミズーリのように浸透していない。その要因の一つはミズーリ州初等中等教育局や大学の養成機関、SC協会が協力し合ってキャリア教育を推進する体制が、日本では確立されていないことにあると考える。さらに、日本にはミズーリ州におけるSCの役割を担う人材が養成されていない。ミズーリ州ではSCがガイダンスカリキュラムの推進の中心となっていた。カリキュラムを理解し、自校の児童生徒の課題を明確につかんでカリキュラムを作成し、教師と協働しながら児童生徒へ学びを提供することができていた。日本では様々な立場の人が、それぞれの立場からキャリア教育に関わっているため、児童生徒の成長を促進させる取組が包括的になっていない。

このような日本のキャリア教育の課題を解決するためには、ミズーリ州におけるSCのように、日本においてもキャリア教育に精通し、自校の児童生徒の課題に即したカリキュラムを作成し、管理する役割を担う人材が必要である。しかし、日本の現行の非常勤スクール・カウンセラー配置制度では、主に臨床心理学の視座からの援助を行っており、ミズーリ州のSCとは担う領域が異なるため、同じ役割を期待することは困難である。今後、ミズーリ州のように包括的なプログラムを作成、管理していくには、教員免許を有し、学校心理士などの資格をもつ者が重要な役割を担うと考える。

福岡教育大学教職大学院生徒指導・教育相談リーダーコースでは現職教員がキャリア教育について学び、学校心理士の資格を取得することができる。今後の日本のキャリア教育の推進には教職大学院を修了した教員が重要な役割を担うのではないかと考える。このような立場を自覚しながら、現場でのキャリア教育の推進に努めていきたい。

## 引用文献

- 文部科学省 (2011a). 生徒指導提要  
文部科学省 (2011b). 中学校キャリア教育の手引  
き  
西山久子 (2014). Comprehensive School  
Counseling Program における Framework  
の検討①～ミズーリ州におけるガイダンス・  
カリキュラムの構築をとりあげて～ 福岡教  
育大学大学院教職実践専攻年報 4, 201-208.